

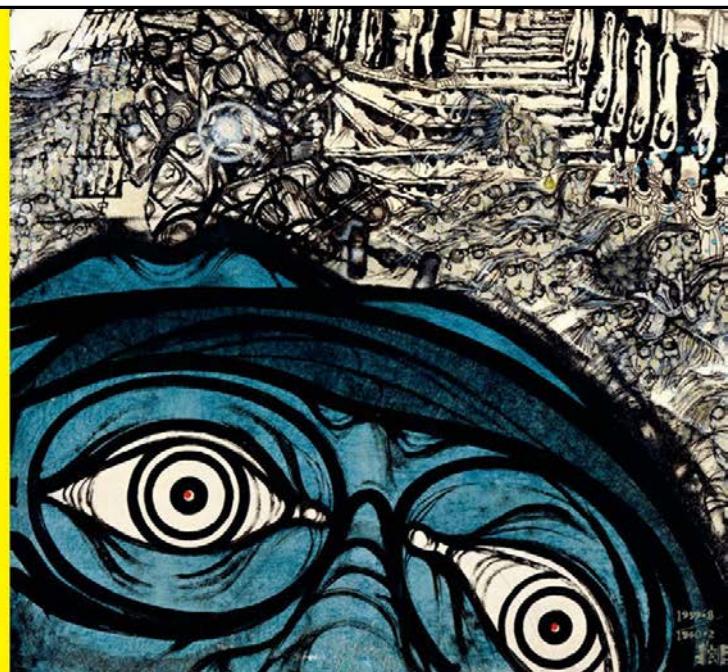


静岡県立美術館
 Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

中村宏 アナクロニズム (時代錯誤)の芸術へ 2026.4.20 fri - 5.13 sun

Hiroshi Nakamura: Beyond Anachronism



企画概要

本展覧会は、浜松市出身で日本の戦後美術を代表する画家、中村宏（1932年-）を包括的に紹介する大規模回顧展です。全国の美術館と個人所蔵者からお借りした約200点の作品と、関連資料を一堂に集め、画家の約70年にわたる制作活動の成果を現代の鑑賞者に広く問いかけます。中村は、アートにおける表現が目まぐるしく変化し多様化する中で、みずからを「アナクロニズム（時代錯誤）」の画家と呼び、描くことを通じて社会や美術表現に対する批評的な態度を貫いてきました。展覧会では、1950年代半ばのルポルタージュ絵画にはじまり、1960～70年代の時代精神を映し出すセーラー服姿の女学生や機関車をモチーフにした絵画・イラストレーションなど代表的な作品を紹介します。また、中村の表現における映画や漫画からの影響、1960年代を中心とする同時代の芸術家との交流の足跡をたどるとともに、1970年代以降の絵画表現における探求についても再検証を行います。

本展の
みどころ

1 200点を超える作品・資料から、約70年にわたる中村宏の創作活動を紹介する大規模回顧展

2 1950年代のルポルタージュ絵画のほか、女学生や機関車を題材にした60・70年代の代表作を一挙紹介

3 美術のみならず各分野の表現者と交流し、オルタナティブな展開を示した中村の創作活動を、同時代の社会や芸術表現の流れに位置づけます

展示構成

1. 社会へのまなざし

1951年に浜松から上京し、日本大学芸術学部へ入学した中村宏は、政治情勢が混乱する中で、学生運動に身を投じました。やがて大学にオルグ活動に来ていた前衛美術会の尾藤豊や桂川寛らと出会い、左翼芸術運動に加わります。1953年からは青年美術家連合の一員として米軍基地拡張反対運動に参加し、現地でのスケッチをもとに《砂川五番》（1955年）を制作するなど、「ルポルタージュ絵画」の画家として美術史にその名を刻みました。しかし1950年代後半以降は、絵画観の違いから左翼芸術運動から離れ、同人誌『批評運動』を通じて新たなアリズムを仲間とともに模索していきます。《階段にて》（1959-1960年）では映画監督のエイゼンシュテインのモンタージュ理論を応用し、社会的主題と前衛的表現の統合を試みました。



砂川五番
1955年
東京都現代美術館



島
1956年
浜松市美術館



蜂起せよ少女
1959年
練馬区立美術館



階段にて
1959-60年
宮城県美術館

2. 記憶の中の風景

1950年代末から中村は、吉本隆明や埴谷雄高の思想に影響を受け、彼らとともに「六月行動委員会」に参加し、安保改定に反対しました。しかし、条約の自然承認によって闘争が終息すると、それを「敗北」と捉え、作品は内省的な作風へと変化します。1961年の《場所の兆》《パシフィック》では、社会的イメージは姿を消し、予兆を孕む風景が描かれるようになります。積乱雲、草、蒸気機関車、地面に空いた穴といったモチーフには、少年期の浜松での記憶や戦争体験と結びつきつつも、絵画上では匿名的な風景として提示されました。その後も記憶と風景を結び付ける試みは続き、89歳を迎えた2022年には、再び浜松での戦争体験をルポルタージュ絵画として提示しました。



場所の兆 (1)
1961年
浜松市美術館



ある肖像
1962年
栃木県立美術館



空襲1945
2022年
東京国立近代美術館

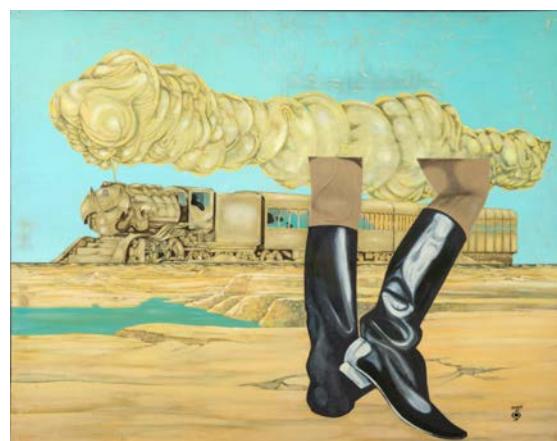
展示構成

3. セーラー服と蒸気機関車

1960年代初頭、日本が高度経済成長を続け、「反芸術」が盛り上がる中で、中村は絵画のアナクロニズム性（時代錯誤性）を自覚的に受け入れ、絵画を政治や感覚主義から切り離し、思考の場として再定義しようと試み、現実を観念的に描く方法を模索します。1960年代半ば以降は、セーラー服の少女や蒸気機関車、風景など、個人的記憶に基づくモチーフを絵画や挿画に繰り返し用い、それらを“呪物”として匿名化し、観賞者の解釈を引き出す装置として提示しました。《修学旅行》(1964年)に見られるモチーフの組み合わせは、《遠足》(1967年)、《円環列車・A—望遠鏡列車》(1968年)、《円環列車・B—飛行する蒸気機関車》(1969年)へと展開し、1960年代後半の中村の作品における重要なキャラクターとなっていました。



聖火千里行
1964年
高松市美術館



ブーツと汽車
1966年
名古屋市美術館



遠足
1967年
板橋区立美術館



円環列車・B—飛行する
蒸気機関車
1969年
東京国立近代美術館



似而非機械
1971年
練馬区立美術館

展示構成

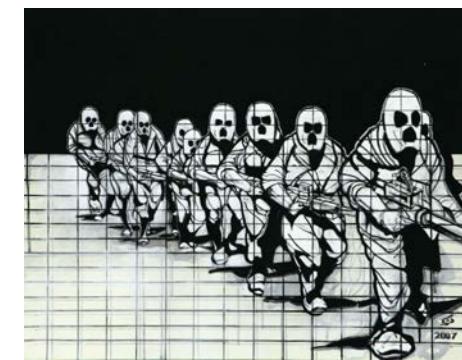
4. 絵画と観賞者

1970年の大阪万博を頂点に、テクノロジー・アートやインター・メディア、もの派などが台頭する中で、中村は素材やメディアの新しさに依拠するモダニズムを「市場社会の芸術的ゴミ」と批判し、絵画を精神労働の場と位置づけました。1950年代末より、絵画と観賞者の交歓を芸術の根拠と捉えてきた中村にとって、制作とは常に新たな観賞者と出会うための装置をつくる行為であったとも言えるでしょう。この視点は「観る」行為そのものへの関心へと発展し、『オペラグラス1』(1966年)『女学生に関する芸術と國家の諸問題』(1967年)では、観る構造を可視化する試みがなされました。1970年代に開始した「車窓篇」では、静止した絵画の中に時間と運動を導入し「タブロー機械」と称し、2000年代以降はタブローを連鎖させる「絵図連鎖」へと展開させるなど、観賞者の能動的な視覚体験を追求する作品を発表しています。

4半面の反復（12）
2019年
静岡県立美術館



図鑑8・隊列
2007年
浜松市美術館



5. 同時代芸術家との交流

1960年代の中村は、美術の枠を超え、芸術家や舞踏家、文学者らと交流し、オルタナティブな表現活動を展開しました。その背景には、1950年末に左翼芸術運動を離れ、新たな芸術運動を模索していたこと、さらに1963年の「読売アンデパンダン展」終焉により美術界が変化したことなどが挙げられます。1964年立石紘一と「観光芸術研究所」を設立し、個の作家同士で、絵画によって絵画を問い直す活動を行いました。前衛美術会では、研究会や機関誌編集、「東京芸術柱展」(1965年)の企画などに関わり、1976年の「齣展」への改組にも中心的に携わりました。加えて現代思潮社での装丁や、同社が1969年に開校した「美学校」では既存の大学や学園闘争から離脱した若者達に描く技術を教え、社会の動向とも連動した表現活動を実践しました。土方巽、澁澤龍彦、稻垣足穂ら異才との交流も中村自身の創作活動に影響を与えた。



(資料)「東京芸術柱展 山下菊二旧蔵資料」
1965年
東京文化財研究所



現代思潮社ポスター
「トロツキー選集全巻完結
記念講演会」
1966年
名古屋市美術館

芦川羊子舞踏講演ポスター
「D53264機にのる友達ビオレット・ノイ
オレット・ノジェイルの方
へつねに遠のいてゆく風景
PACIFIC231機にのる舞踏
娘芦川羊子」
1968年
名古屋市美術館



「1969年度美学校 生徒募集
ポスター」
1969年
ポスター・ハリスカンパニー

関連イベント**伴奏付き無声映画上映会****セルゲイ・エイゼンシュテイン「戦艦ポチョムキン」**

2月1日（日）14:00－ 会場：当館講堂

申込不要／参加無料 先着250名まで

[ピアノ伴奏] 鳥飼りょう氏 [アフタートーク] 畠山宗明氏（映画学）

中村宏は、1950年代にエイゼンシュテインのモンタージュ理論を取り入れ『階段にて』をはじめとする作品を制作しました。本上映会では、中村が影響を受けた「戦艦ポチョムキン」を伴奏付きで上映後、ゲストを交えたアフタートークを行います。

ゲスト・トーク

2月8日（日）14:00－16:00 会場：当館講堂

申込不要／参加無料 先着250名まで

出演アーティスト：

大庭大介氏、小左誠一郎氏、門田光雅氏、持塚三樹氏（五十音順）

同時開催の収蔵品展「2000年代の絵画」に出品する4人の画家と担当学芸員が、中村宏の作品や1950年代以降の日本の絵画史と自作の関わりについて語り合います。

館長美術講座「セーラー服と機関車」

3月8日(日) 14:00－15:30 会場：当館講堂 申込不要／参加無料 先着250名まで
講師：木下直之（当館館長）

担当学芸員との鑑賞会（対話形式）

1月31日(土)・2月28日(土) 各11:00－12:00頃 集合場所：第1展示室
申込不要／参加無料／要観覧券

学芸員によるフロアレクチャー（展示解説）

1月31日(土)・2月28日(土) 各14:00－15:00頃 集合場所：第1展示室
申込不要／参加無料／要観覧券

わくわくアトリエ「絵を描こう、物事を観よう」

3月1日(日) 10:00－16:00 ※昼休憩1時間含む 講師：小左誠一郎氏（画家）

定員：12名 対象：小学生～中学生 *小学3年生以下は保護者同伴でご参加ください

要申込（受付期間 2月4日～13日、申込方法：FAX・郵送・実技室ポストに投函・WEBフォーム）

要観覧券（保護者のみ）／材料費：600円程度

実技講座「切り絵ワークショップ 切ってつくるモンタージュの世界」

2月14日(土)・15日(日) 各13:00－16:00 講師：福井利佐氏（切り絵アーティスト）

定員：各日24名 対象：中学生以上の個人 会場：実技室

要申込（受付期間 1月16日～24日、申込方法：FAX・郵送・実技室ポストに投函・WEBフォーム）

要観覧券／材料費：500円程度

ギャラリーツアー

当館ボランティアがナビゲーター役を務め、
本展の出品作品を対話形式で30分程度鑑賞します。

2月7日(土)、2月21日(土)、3月7日(土) いずれも10:30－、11:30－

集合場所：第1展示室 申込不要／参加無料／要観覧券

申込方法など各イベントの詳細は、当館ウェブサイトにてご確認ください

開催概要	展覧会名 中村宏展 アナクロニズム（時代錯誤）のその先へ
会期	令和8(2026)年1月20日(火)～3月15日(日)
会場	静岡県立美術館（静岡市駿河区谷田53-2）
休館日	毎週月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館。）
開館時間	10:00～17:30（展示室への入室は17時まで）
観覧料	一般1,400円（1,200円）、70歳以上700円（600円）、大学生以下無料 ※（ ）内は前売および20名以上の団体料金。 ※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は無料。
主催	静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
特別協力	東京都現代美術館、名古屋市美術館、練馬区立美術館、浜松市美術館、宮城県美術館
助成	芸術文化振興基金助成事業
アクセス	JR東海道線「草薙」駅県大・美術館口から、徒歩約25分 またはバス(草薙美術館線県立美術館行き)約6分、「県立美術館」バス停下車。 静岡鉄道「県立美術館前」駅南口から徒歩15分またはバス(草薙美術館線県立美術館行き)約3分、「県立美術館」バス停下車。 JR「静岡」駅からバス(北口11番のりば／県立美術館線県立美術館行き)約30分、「県立美術館」バス停下車。 東名高速道路 静岡IC・清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分。新東名高速道路 新静岡ICから約25分。

同時開催展
情報

2000年代の絵画～静岡ゆかりの作家による

2026年1月20日(火)～4月19日(日)

本展では、浜松出身の画家中村宏の個展開催にちなみ、静岡にゆかりのある1970～1980年代生まれの石田徹也、大庭大介、小左誠一郎、門田光雅、持塚三樹の5人の作家が1990年代後半以降に描いた絵画をご紹介します。写真、映像、インスタレーションなどさまざまな表現方法がある中で、絵画を主な表現媒体にして表現を追求するそれぞれの作家たちの、描くことへのこだわりを見つけてください。



石田徹也
飛べなくなった人
1996年
静岡県立美術館
＊前期展示



■ 関連イベント 出品作家（大庭大介氏、小左誠一郎氏、門田光雅氏、持塚三樹氏）によるフロアレクチャー
2月22日(日) 14:00～15:00頃 集合場所：第7展示室 申込不要／参加無料／要観覧券

※本展の会期は「中村宏展 アナクロニズム（時代錯誤）のその先へ」開催期間中の前期(1/20-3/15)と終了後の後期（3/17-4/19）に分かれます。前期は収蔵品に一部外部からの借用品を交えた展示構成、後期は収蔵品のみの展示構成を予定しています。

次回の企画展

開館40周年記念展 静岡県立美術館をひらく 7つの扉

2026年4月25日(土)～6月21日(日)

展覧会に関するお問合せ

静岡県立美術館
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2
TEL : 054-263-5857 FAX : 054-263-5742
E-mail : webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp
担当 : 川谷、植松（学芸課）柳田（企画総務課）

広報用画像
申込書E-mail : webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp / FAX: 054-263-5742

担当 : 川谷、植松 (学芸課) 柳田 (企画総務課)

本プレスリリースに掲載されている作品画像を、展覧会広報用に提供いたします。
ご希望の画像番号に○をつけて必要事項を記入し、上記メールアドレスまたはFax番号宛にお申し込みください。

【企画展】中村宏展 アナクロニズム（時代錯誤）のその先へ

1 《砂川五番》 1955年 東京都現代美術館	2 《島》 1956年 浜松市美術館	3 《蜂起せよ少女》 1959年 練馬区立美術館	4 《階段にて》 1959-60年 宮城県美術館	5 場所の兆 (1) 1961年 浜松市美術館	6 《ある肖像》 1962年 栃木県立美術館	7 《聖火千里行》 1964年 高松市美術館
8 	9 	10 	11 	12 	13 	14
15 	16 	17 	18 	19 	A 	B
※制作者の表記がない作品の作者はすべて中村宏です。						

■ 申込者基本情報

御社名

媒体名

発行・放送予定日

発行部数

ご担当者名

TEL

FAX

E-mail

URL (ウェブの場合)

連絡欄

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5組10名様）を読者プレゼント用に提供いたします。

プレゼント用招待券を【希望する・しない】

送付先住所【〒

】

【画像ご使用に際してのお願い】

*画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。

*画像キャプションを必ず明記し、画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。

*基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。

*掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。